

連携教育通信

令和4年11月1日
 中野区教育委員会指導室
 就学前教育推進担当
 指導主事 矢澤 理恵
 主 査 佐藤 康枝
 中野区中央1-41-2
 みらいステップなかの
 教育センター
 電話 03(5937)3097

保育園と幼稚園と小学校との連絡協議会 特集

令和4年6月14日(火) 第1・第3ブロック 6月21日(火) 第2・第4ブロック で開催されました。

- 第1ブロック：中野第一小学校 53名
- 第2ブロック：白桜小学校 84名
- 第3ブロック：江古田小学校 67名
- 第4ブロック：鷺宮小学校 74名

中学校の先生の参加も含めて合計278名の参加がありました。

基調提案

「主体的な遊びから学びへ ～養護と教育を一体的に～」
 子どもの発達と学びの連続性を踏まえた教育及び保育の充実

子どもたちが「生きる力」を身につけて健やかに成長するためには、幼児期から小学校・中学校までの15年間の発達と成長を見据えた円滑な学びの連続性を欠くことができません。今年度は保育園が担当になり、養護と教育を一体化して幼児教育に取り組んでいる保育園の姿をご覧いただき、主体的な遊びからの学びが「10の姿」としてどのように読み取っていただけるかを共有していきたいと考えての基調提案でした。



体育館にて

各担当保育園のスライドを見た後に、7～9人ずつのグループに分かれて協議をしました。第4ブロックは各教室で行い、他の3ブロックは体育館にて行いました。

参加者がそれぞれの立場で子どもの育ちを考えながら、保育園・幼稚園の取組の詳細を聞き、小学校・中学校の取組を共有していました。連携を大切にしていきたい取組を確認することができた等の感想を多くいただきました。また、15年間を見通して子どもを育てていく中で大切にしていきたいこととして「自己肯定感」をあげ、自分も他人も大切に、どのように自己肯定感をもつことに繋げていくのがよいか話題にしていたグループもありました。



図書室から配信

一方、今後の課題となるご意見もいただきました。感染症対策の中での参加人数やオンラインの配信の仕方、グループ討議の目安や司会進行のあり方、公開保育等についてのご意見は今後の保幼小連絡協議会の運営の参考にさせていただきます。



教室にて



<幼児期の終わりまでに育ってほしい姿> (10の姿)

- 健康な心と体
- 自立心
- 協同性
- 道徳性・規範意識の芽生え
- 社会生活との関わり
- 思考力の芽生え
- 自然との関わり・生命尊重
- 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚
- 言葉による伝え合い
- 豊かな感性と表情

<9月2日（金）保幼小事後運営会議を開催いたしました。>



保育園・幼稚園・小学校の連絡協議会の事後運営会議を教育センター・研修室1001にて行いました。

令和4年度会場小学校の校長先生方、担当保育園の各ブロック園長先生方、次年度担当の幼稚園の各ブロック園長先生方、保育園幼稚園課運営支援係、教育委員会指導室の出席で行いました。

今年度担当だった保育園の園長先生より報告があり、グループ協議の人数は協議のしやすい人数だったこと、公開保育への参加者が少なく残念だったこと等があげられました。

保幼小連絡協議会開催時に、入学後2か月が過ぎ、小学校生活に慣れてきた1年生の姿を見たいという意見も多く、小学校の先生方から授業参観の可能なタイムスケジュールも提案していただきました。

幼稚園の保育の時間なども考慮し、次年度の開催時間は今年度より15分遅らせ14:45～16:30にすることが確認されました。授業参観については、次年度の担当の幼稚園・開催校、事務局と相談させて頂くことになりました。

令和5年度4月の事前運営会議では検討してお知らせいたします。よろしくお願いいたします。



～令和5年度の予定～

- ・運営担当：幼稚園
- ・事前運営会議：4月21日（金）
- ・会場校（予定）・日程（予定）：14:45～16:30
- 第1ブロック：中野本郷小学校 第3ブロック：江原小学校 <6月13日（第2火曜日）>
- 第2ブロック：桃園第二小学校 第4ブロック：啓明小学校 <6月20日（第3火曜日）>
- ・事後運営会議：9月8日（金）



～職場体験～ …中野東中学校から本町保育園へ…

中学校<総合的な学習の時間>の授業の一環として、区立中野東中学校の2名の生徒が区立本町保育園で職場体験を行いました。この日はあいにくの雨で、屋外では遊ばずに室内での自由遊びとなり「こま回し」「けん玉」で遊びました。子どもたちの中に入るきっかけは、『一緒に遊ぶこと』です。



こま回しもけん玉も“成功させなくては”と始めは力が入っていましたが関わりの中で子どもたちに教わったり“完璧でなくてもいい”と感じ取り、次第に子どもたちの目線に合わせて会話するようになりました。異年齢の子どもたちと関わる機会が少ない昨今、中学生にとっても保育園の子どもたちにとってもすてきな経験になりました。

